

## 山梨県医師会優秀賞 受賞記念講演要旨

妊娠糖尿病 (GDM) のスクリーニング検査としての  
50 g glucose challenge test (GCT) の有用性と実施時期の検討河野恵子<sup>1)</sup>, 星 和彦<sup>1)</sup>, 滝澤 基<sup>1)</sup>, 金子 誉<sup>2)</sup>, 平田修司<sup>1)</sup><sup>1)</sup>山梨大学医学部産婦人科学講座<sup>2)</sup>山梨労働衛生センター

【目的】GDMのスクリーニング検査として、妊娠初期GCTの有用性を検討した。

【方法】妊婦201例に、妊娠初期、中期にGCTを施行し(cut off値; 130 mg/dl), 2週間後にOGTTを行った。妊娠糖尿病型を示したものはGDM patternとし、最終的なGDMの診断は、妊娠中期にGDM patternを呈した症例に限定した。

【結果】妊娠初期、中期ともにGDM pattern; 3例(X群), 初期のみGDM pattern; 5例(Y群), 初期中期ともに正常; 193例(Z群)であった。GDMと診断した3症例は、初期にもGDM patternを示していた。

GDMの検出に対する妊娠中期GCTの感度は100%, 特異度は88%, GDM pattern(妊娠初期)の検出に対する妊娠初期GCTの感度

は63%, 特異度は84%であった。GDMと診断された3例は、妊娠初期のGCTは陽性であり、初期GCTのGDMの検出感度は100%, 特異度84%であった。

OGTT検査前日の食事について、X, Y, Z群で検討した。Y群は総食事摂取量、糖質摂取量とも妊娠初期で有意に少なかった。ROC曲線より、OGTT前の食事は食事摂取量488kcal(糖質245kcal)以上の摂取が望ましい。

【考察】妊娠初期のGCTは妊娠中期におけるGDMの検出に有効であった。Y群は、妊娠初期のOGTT施行前日の食事、糖質摂取量が有意に少なかったため誤診された可能性があり、妊娠初期のGDMの判定は慎重に行う必要がある。